

|        |  |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 自ら学ぶ 認め合う 大きな夢をもつ  |
| 目指す学校像 | 夢のある生き生きとした学校  |
| 重点目標   | 1 生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導・教育相談を行い、心理的安全性を高める。<br>2 カリキュラムマネジメントの充実による自立した学習者を育成する。<br>3 学校、家庭、地域が連携し、地域とともにある学校づくりに取り組む。<br>4・5 教職員の心理的安全性を高め、学び続ける教職員集団の育成に努める。 |

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

| 学校自己評価 |   |  |   |   |  |     | 学校運営協議会による評価  |  |
|--------|---|--|---|---|--|-----|---|--|
| 年度目標   |   |  |   | 年度評価  |  |     | 実施日令和8年2月17日  |  |
| 番号     | 現状と課題   | 評価項目   | 具体的方策   | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況  | 達成度 | 次年度への課題と改善策   | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等  |
| 1      | <現状><br>○授業に関しては、真面目に取り組む生徒が多い。<br>○調査・整理・まとめ・発表する活動に意欲的に取り組む生徒が多い。<br><課題><br>○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査において、どの教科も基礎問題・活用問題の正答率に二極化傾向が見られる。<br>○教科の単元によって、取り組みに差が見られる。 | ・自立した学習者を育成する。                               | ・学び方、教え方の授業実践等を共有する研修を実施し、学びの指標を意識した授業改善を行う。<br>・学習への主体性を高め、自ら学習の最適化を進め、家庭学習等で活用できるようにする。<br>・ICTの利点の活用、教科横断的な授業等による探究的な学びにつながる授業を実践する。 | ・学びの指標(生徒対象)の該当項目の向上(前年度比0.1以上)<br>・教育データの利活用による対応体制を確立し実践できたか。                 | ・学びの指標の該当項目は、前年度比-0.7であった。<br>・市教委の指導主事より学力向上カウンセリング研修を全教員で受講し、本校の実態の把握と方向性を見出すことができた。                               | B   | ・生徒は、分かりやすい授業と認識しているが、主体的に取り組む等については、意識が低い。進んで学習に取り組む姿勢を構築する取り組みを行う。<br>・本校の生徒の実態を把握することができた。基礎学力の定着に向けた取り組みにおいて、「言語活動」による取り組みを中心とすることで、より一層、自主的、探究的な取り組みができるように検討する。 | ・チャレンジスクールの活用、連携による学習環境を構築することが出来るのではないか。<br>・学習環境については、小学校も同様の内容が考えられる。自ら学ぶ姿勢、目的意識を図ることを共有することが必要である。               |
| 2      | <現状><br>○素直で、落ち着いて生活をしている生徒が多い。<br>○生徒アンケートで、学校生活が快適である項目が約84%であり、肯定的な意見が多い。<br><課題><br>○アンケートのルールを守っているという項目の肯定的意見が、生徒77%、保護者86%である。                                 | ・生徒一人ひとりに寄り添いながら学習環境を整備し、基礎学力の定着を実現する。       | ・生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導・教育相談を行い、心理的安全性を高めるため、情報共有と迅速な対応を行う。  | ・生徒の快適な学校生活の項目のA評価の向上(50%以上)<br>・全校三者面談、保護者会等の実施、学校、学年だより等の発行を計画的に進められたか。       | ・生徒の快適な学校生活の項目のA評価は、36.9%であった。肯定的な評価は約82%であった。<br>・三者面談、保護者会等については、計画的に進めることができた。3学期に授業公開日を新たに実施した。                  | B   | ・生徒の学習環境について、肯定的な意見が多いが、心理的安全性については、十分とは言えない。学校、生徒、保護者、地域等の連携をより一層進める。<br>・各学年の取り組みについて、学校だより、保護者会等を活用して、情報発信と共有を引き続き実施していく。  |  |
| 3      | <現状><br>○学校運営協議会において、生徒のことを考えての熟議が行われている。<br>○PTAを含め、保護者が学校に対して、とても協力的である。<br><課題><br>○コミュニティ・スクールとしての活動が少ない。<br>○学校運営協議会の活動について、発信が少なく、周知に至っていない。                    | ・学校、家庭、地域が連携し、ともにある学校づくり。                    | ・学校運営協議会、本校PTAとの連携、校区小学校PTA等の情報収集等を行い、生徒と協働的な活動の場の発掘を行う。<br>・学校だより、学校HPによる取組内容について積極的な情報発信を行う。  | ・情報発信等における評価項目で、保護者・地域のアンケートでA評価の向上(45%以上)<br>・地域行事等について、校内での掲示、発信等の実施(月1回以上)   | ・情報発信等における評価項目で、A評価の保護者34.6%・地域100%であった。肯定的な意見は、保護者約88%であった。<br>・地域行事等の掲示については、不定期であったが、実施できた。                       | B   | ・情報発信ツールを新たに導入したため、情報発信については、安心メール、ホームページよりも利便性が増した。次年度は情報発信の内容について、検討していきたい。<br>・地域とのつながりについては、自治会や各団体等への情報発信を行うことができたため、今後より一層の連携を図る。                               | ・公民館等との連携をより推進する。作品掲示、発表等で保護者にも知ってもらおう機会となる。<br>・小学生にも中学生を見てもらう機会があるとよい。<br>・学校だより等で、結果だけでなく、地域で発表する取り組みの事前案内があるとよい。 |
| 4      | <現状><br>・施設等の老朽化、経年劣化による破損等が見られる。<br>・安全点検日を設け、事故根絶に向けて取り組んでいる。<br>・生徒の欠席連絡等については、アプリを導入して、使用度が上がっている。<br><課題><br>・アプリの登録について、100%に至らず、周知に至っていない。                     | ・計画的に予算執行を行い、施設や諸表簿の確認を実施し、安心、安全な学校づくりを実現する。 | ・校内巡視を行い、施設等の安全確認を実施する。<br>・施設不備、諸表簿等による事故を根絶するため、安全点検日を設けて確認をする。<br>・会計担当者会議を設置し、校内会計規定等に基づき、会計監査を実施する。                                | ・教職員の学校評価において、該当項目の肯定的な意見の向上(90%以上)   | ・教職員の学校評価において、該当項目の肯定的な意見は77%であった。<br>・経年劣化等による施設の不具合が多く、修繕可能なものについてはその都度対応をした。<br>・会計担当者会議を設置して、会計事故等の無いように監査を実施した。 | B   | ・大きな事故等につながることはなかったが、施設の不備による急な対応があり、不具合等があった。市教委と連携を取りながら施設の改善を図る。<br>・会計については、担当者の負担が大きく、会計担当者会議等を活用しての負担軽減を検討していく。   |  |
| 5      | <現状><br>教職員のアンケートにおいて<br>・働きやすい職場であるの項目において、肯定的な評価は80%であった。<br>・研修の参加のしやすさの肯定的な評価は76%であった。<br><課題><br>・業務改善については、肯定的な意見は、52%であった。<br>・希望研修等への研修参加者が多くない。              | ・教職員の心理的安全性を高める業務改善の実施                       | ・業務改善チームを立ち上げ、量的改善、質的向上の業務改善を目指す。<br>・教職員のメンタルヘルスケアのため、在籍時間の把握、面談や声掛けを心掛け、ストレスチェックや長時間在籍者の医師による面接指導を活用しながら支援を行い働きやすい職場づくりを進める。          | ・教職員のアンケートの業務改善の項目において、肯定的な意見の向上(60%以上)<br>・働きやすい職場であるとの項目において、肯定的な意見の向上(85%以上) | ・教職員のアンケートの業務改善の項目において、肯定的な意見は68%であった。<br>・働きやすい職場であるとの項目において、肯定的な意見は96%であった。  | A   | ・業務改善チームを立ち上げて、取り組んだ成果が見られた。今後も検討を続けていく。<br>・教職員間の連携が見られた。各主任等を中心とした学校運営を進めていく。   | ・時間的改善も大切だが、やりがい等の視点が必要である。<br>・先生方の精神的安定が崩れ、退職等の無いように地域で育てる、見守ることが必要である。<br>・生徒の様子を見てみると、先生方はとても良く取り組んでいると判断できる。    |
|        | <現状><br>教職員のアンケートにおいて<br>・業務改善については、肯定的な意見は、52%であった。<br>・希望研修等への研修参加者が多くない。   | ・教職員の資質向上に向けた研修等の充実                          | ・キャリアnavi、研修履歴及び教職員プラットフォームを活用した目標設定と的確な受講奨励を行い、授業力向上を図る。   | ・教職員アンケートの研修の項目において、参加しやすさの向上(80%以上)<br>・希望研修等への参加者を昨年度より増やす。                   | ・教職員アンケートの研修の項目において、参加しやすさについて、91%であった。<br>・希望研修への参加について、昨年度(9名)より2名増えて、11名参加した。                                     | A   | ・希望研修への参加意識があり、長期休業中のみならず、可能な限り参加できる体制を構築していく。  |  |

